

平成 19 年度日本認知症ケア学会・読売認知症ケア賞「功労賞」



大 國 美智子 (おおくに みちこ)

大阪後見支援センター・所長

1932 年 1 月 4 日生まれ

【授賞理由】

自己決定や意思表示が難しくなった認知症の人たちの権利とは何かを世に説きその人たちの権利擁護のために払われた献身的な努力や活動は多くの人々に人として生きることの意義を教えるものである。その功績に対し、本賞を授与するものである。

【略 歴】

1961 年 4 月～1962 年 12 月	大阪大学医学部
1974 年 7 月～1989 年 4 月	近畿大学医学部
1989 年 5 月～1995 年 3 月	大阪府立大学社会福祉学部
1996 年 4 月～2000 年 3 月	花園大学社会福祉学部
1997 年 10 月～	大阪後見支援センター

【業績および功績】

1. 認知症対応の先駆的事業助成の選考と指導

1986～2006 年、日本生命財団高齢者福祉研究・事業助成において、主に認知症部門担当。松原はその第 1 号事業であったが、毎年開催された先駆的事業の報告シンポジウムには、1,000 名を超す参加者があり、認知症に関する先駆的・開発的事業の全国的展開に貢献した。

2. 特別養護老人ホームにおける認知症ケアと在宅における認知症ケア

1977 年、日本老年社会科学会や老人施設協会研究会等において、川村耕造氏(社会福祉法人青山里会前理事長)と、特別養護老人ホームにおけるノーマライゼーション、老人ホームの社会化の理念のもと、「特養においても、それまで対象者から除外される傾向にあった認知症高齢者を入所させるべきこと」「認知症専門特養において、ケアのあり方のモデルを示すべきこと」などと意見が一致。

1981 年、現場での具体的取組として、川村耕造氏によって、わが国最初の認知症専門特養「第二小山田特養」が開設された。そこでの施設ケアのあり方は、NHK テレビ放映(二度童子の人々)となり、在宅ケアのあり方は、映画(花いちもんめ)となったが、その制作に協力。大阪大学医学部西村健教授とともに、医学監修などを行った。

3. 日常生活自立支援事業(地域福祉権利擁護事業)と成年後見制度

1992 年 厚生省委託研究「痴呆性高齢者の財産等保護研究事業」の成果発表。

1996 年 大阪府社会福祉審議会において、「意思能力にハンディキャップを持つ

知的障害者，痴呆性高齢者，精神障害者等のための権利擁護方策について」を大阪府に答申。

1997 年 答申の構想が，権利擁護機関としての「大阪後見支援センター」として実現。上記の検討会や大阪府社会福祉審議会の委員としての経験から所長に就任。

1999 年 センターの事業のうちの「経済生活支援事業」は，社会福祉法に位置づけされた「福祉サービス利用支援事業」(地域福祉権利擁護事業)の参考にされ，今日の「日常生活自立支援事業」につながっている。

2005 年～ 成年後見等の市町村長申立促進のため，大阪府成年後見制度研究会の事務局。

4. 認知症高齢者の虐待防止

1994 年～ 大阪高齢者虐待研究会（後の大阪高齢者虐待防止研究会）の世話人，顧問として関わる。隔月の研究会を開催。

1995 年～1997 年 啓発のための講演会「痴呆性老人の生活と人権」「海外における高齢者ケア」やシンポジウム「痴呆性高齢者の虐待と財産管理を考える」などを開催。

1995 年～1997 年 1 日電話相談「高齢者虐待防止相談 110 番」を設置。

1996 年 全国の在宅要介護高齢者に関連する診療・相談窓口 4,150 箇所の調査を行い，認知症 560 例の分析を行った。

1998 年 認知症のケアに関わる職種の人権擁護意識調査。

2000 年 介護保険開始前の虐待と虐待予備軍調査を行った。

【主な著書】

- | | |
|--------------|------------|
| ・ 呆けを看とる | 中央法規出版 |
| ・ ぼけ相談室 | ミネルヴァ書房 |
| ・ 在宅支援の技法 | 中央法規出版 |
| ・ 生活を支える権利擁護 | 中央法規出版 |
| ・ 高齢者の権利擁護 | ワールドプランニング |
| ・ 改訂痴呆カルテ | ワールドプランニング |
| ・ 絵でみる認知症 | ワールドプランニング |